

連合三重

臨時号

No.211

2019年6月27日発行

日本労働組合総連合会
三重県連合会

〒514-0004 三重県津市栄町1丁目891

TEL.059-224-6152

FAX.059-223-3633

発行責任者 伊藤 公則

編集人 廣瀬 純子

クラシノ
ソコアゲ
応援団!

RENGOキャンペーン
一人ひとりが主役です。

HPアドレス <http://www.rengo-mie.jp/>



メールアドレス info@mie.jtuc-rengo.jp

働くことを軸とする安心社会の実現に向けて

第25回 参議院議員通常選挙 三重県選挙区

未来へ
つながぐ!!



よしの 正英

無所属・新人

44歳

参議院三重県選挙区
芳野
まさひで

「誰もが共に暮らしやすい」
社会をつくるために走り回ります!!



未来への責任を
果たします!

日本の産業力を
引き上げます!

「暮らしの底上げ」
で生活の安定を!

労働環境の改善
子育て支援・福祉の充実



▲新春旗びらきであいさつ



▲三重県中央メーデーであいさつ



▲ユースフォーラムで
女性・青年委員会とディスカッション



▲政策実現集会で必勝ガンパロー



▲男女平等参画の意見交換をする



▲3.8国際女性デーの街宣に参加



▲グランドゴルフ大会で退職者にあいさつ



▲総会で人権について語る

ご家族・知人・友人に支援の輪を広げましょう!

比例代表選挙に私たちの仲間10人を推薦決定しました!



候補者擁立の構成組織からのメッセージ

てつじ
いそざき 哲史
【自動車総連】
国民民主党・現1期・50歳

日本の自動車産業を取り巻く情勢は、産業の大転換期への対応が求められるなど、更に国内産業基盤の強化を図り、雇用の安定・確保をめざし、将来に向けて確立させていかなければなりません。

また、「生活者」視点では、将来にわたり誰もが希望をもてるよう、全ての世代が安心して暮らしていける社会保障制度の確立は急務です。

だからこそ、われわれの掲げる政策・制度を実現していくため、一人ひとりが自ら行動し、仲間の総力を結集して、なんとしても「いそざき 哲史(てつじ)」の意義ある勝利のため、全力で闘い抜くことをここに決意します。

いしがみ
石上 としお
【電機連合】
国民民主党・現1期・57歳

みなさまの思いを胸に、働くものの視点から「ワーク・ライフ・バランス」や「均等・均衡処遇」の実現に向けた法整備、「持続可能な社会保障制度の確立」などを、政府に対して訴えてきましたが、1期目の活動を経て、電機産業の持続的発展、誰もがイキイキと働ける職場づくり、安心して暮らせる社会の構築のためには、さらなる挑戦、もう一歩踏み込んだ活動が必要だと痛感しました。

働くものの声を3つの政策「産業」「職場」「暮らし」にこめて、豊かな明日をめざし、全力で挑みます。

参院選比例代表選挙の投票用紙には候補者名を!

もりや たかし
【私鉄総連】
立憲民主党・新人・52歳

東京都檜原村生まれですが、東京出身といっても都会育ちどころか、バス一便が生活を助ける、という過疎の村です。もしバスがなかったら、役所や学校や病院、そして会社に通えたかわかりません。同時に、移動ができたからこそ、地域が活気づき、人と人の絆ができた、と思います。

地域を活性化させる。これが公共交通の果たす役割ですが、採算を度外視する訳にはいきません。鉄道やバス会社の中にはやむなく路線を廃止し、事業から撤退する場合もあります。これではますます地域が衰退してしまいます。過疎化が進行しながらも、様々な工夫をして公共交通を維持・発展させる企業もあります。そこには企業としての誇りがあり、働くみなさんの努力があります。その一助に自分の役割を考えています。

地域の活性化や未来を創るためにも、国政の場で、みなさんの想いを反映させる大役を果たせていただきたいと思います。

おざわ
小沢 まさひと
【JP労組】
立憲民主党・新人・53歳

郵政事業と働く人の安心を創造し、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいる中、働く人の立場に立った働き方改革、生活者の視点に立った社会保障の実現、そして、皆が助け合い、協力し合える社会の実現に向け、全力で闘うことです。

キャッチフレーズである「結(ゆい)あなたと創る 協働&共生の社会の実現」に向け、全国の仲間のもとへ足を運び、「結(ゆい)ロード47」と銘打って、47都道府県を駆け巡っています。

山梨県甲府市出身で趣味は、ランニングと温泉めぐり。JP労組三重連絡協議会は全組合員の先頭に立ち、最後の最後まで全力で取り組みます。

きし
岸 まきこ
【自治労】
立憲民主党・新人・43歳

北海道 栗沢町、現在は合併した岩見沢市出身で、非常に親しみやすい女性です。労働組合に、関わったきっかけは、男女間差別人事、特に「共働き職員に対する早期退職勧奨問題」においては、真剣に交渉し、提案の白紙撤回を勝ち取り、労働組合の必要性を深く感じました。

そして、皆さんもご存知の「財政破綻した夕張市」で仲間の早期退職、住民の高負担、低サービスを目の当たりにして、自治労としての役割を果たすため専従役員になりました。

「岸 まきこ」は、何事も納得のいくまでやり抜きます。そして、「質の高い公共サービスの確立」のため、そこで働く仲間とともに頑張ります。

たむら
田村 まみ
【UAゼンセン】
国民民主党・新人・43歳

まじめに働くみんなのために

労働組合の活動を通じて、「たくさん仲間との対話から、人と人が思いやり、支えあう大切さを感じてきました。

「働くもの」は「生活者」でもあり、「働くものすべて働きがいがあり、安心して働き続けて、生活できるようにしたい」と思うようになりました。

「働く仲間の笑顔のために」田村 まみはUAゼンセンや支援産別の仲間のご支援にできるべく全力でまい進します。

はまの
浜野 よしふみ
【電力総連】
国民民主党・現1期・58歳

これまでの6年間、国力を継続的に高めていくため、持続可能な社会保障・財政、充実した子育て、教育、責任あるエネルギー・安全保障など、真っ当な政策を徹底的に求めてきました。

これからもこのことを中心に、まじめに汗して働く者が報われる社会づくりに向け、働く仲間・生活者の声をしっかりと受け止め取り組んでいくことを誓い、仲間の勢力を結集し全力で戦い抜くことを決意します。

よしかわ
吉川 さおり
【情報労連】
立憲民主党・現2期・42歳

当選以来一貫して総務委員会に所属し、情報通信分野の健全な発展、さらにはそこで働く仲間の環境整備に向けた取り組み、そして同様に災害対策特別委員会にも所属し、国民の生命・身体・財産を守るための防災行政のあり方について継続して質疑を重ねてまいりました。

これからも引き続き防災・減災に資する国会質疑を重ね、これまで以上に原点と初心に立ち返りながら活動を続け、社会保障「いきる」、消防防災「まもる」、情報通信「つなぐ」の政策の3本柱を掲げ、今現在も日本全国、力の限り精一杯駆け抜けております。

私たち情報労連の構成員一同は、組織一体となって全力で取り組む決意をここに表明します。



しゅんいち
みずおか 俊一
【日教組】
立憲民主党・元2期・63歳

1980年から兵庫県内の中学校やインド・ニューデリーの日本人学校で教職についていました。2004年からは政治に関わるようになり、2期12年参議院議員として活動し、15年が経ちました。

その間に社会の様子は大きく変わりました。国内では子どもの貧困が増え、格差は拡大しており、国際情勢は刻々と変化し続けています。今、子どもたちは明るく元気に学校に通っているでしょうか。高齢者たちは、不安なく生き生きと仕事をされているでしょうか。高齢者は介護や年金に支えられた生活ができていますでしょうか。

日々の生活や仕事にこそ政治の原点があります。弱い立場の人たちのためにこそ政治の役割があります。そのことを肝に銘じて、人と人が支え合う社会の実現に取り組んでまいります。

たなか
田中 ひさや
【JAM】
国民民主党・新人・60歳

今回は、6年ぶりに基幹労連様の絶大な支援を受け、JAMの組織内国会議員「ゼロからの議席奪還」をめざす行動を展開しています。

一方、今、政治に求められているのは、格差社会の解消を念頭に、みんなが幸せに暮らせる社会をつくることです。これは、JAMが結成時から政策実現のテーマ:ものづくり、ひとづくり、くにつくりに三角関係の考えに結びつくものです。

ものづくり産業、さらに中小組で構成する私たちの声を、田中ひさやと共に国会に届ける活動に向け、応援宣言の拡大、「ゼロからの議席奪還」への意思をさらに高め、組織存亡をかけて7月決戦で議席奪還を必ず実現させます。

連合東海ブロック(愛知・岐阜・静岡・長野)相互推薦候補予定者 ならびに連合奈良・連合滋賀の推薦候補予定者

愛知	 おおつか こうへい 大塚 耕平 [現3期・59歳] 国民民主党	長野	 はだ ゆういちろう 羽田 雄一郎 [現4期・51歳] 国民民主党
愛知	 たじま 田島 まいこ [新人・42歳] 立憲民主党	奈良	 にしだ かずみ 西田 一美 [新人・58歳] 現連合奈良会長・無所属
岐阜	 うめむら しんいち 梅村 慎一 [新人・48歳] 立憲民主党	滋賀	 ゆきこ かだ 由紀子 [新人・68歳] 無所属
静岡	 かづや しば 賀津也 [現3期・52歳] 国民民主党		

当該する県にお住まいの方、ご家族、知人、友人に支援を!



第25回参議院選挙の必勝に向けた特別決議

決戦の 때가目前に迫っている。

第二次安倍政権発足以降、政府・与党による独善的な運営は、国会を機能不全に陥らせてきた。

国民生活に大きく影響する法案が複数提出された第197臨時国会では、杜撰な法案内容や日程ありきの審議により最後まで熟議が尽くされることはなかった。また、財務省の森友学園に関わる資料改ざん、防衛省による南スーダン国連平和維持活動（PKO）の日報隠蔽問題、厚生労働省の統計不正など、政府による情報の隠蔽・改ざんは民主政治の根幹を揺るがす重大な危機を招いている。

閣僚等の不適切発言による度重なる辞任なども踏まえれば、政府・与党における弛みや驕りの蔓延は否定しがたく、これらすべては一強政治・長期政権の弊害に他ならない。

他方、「アベノミクス」と呼ばれる一連の経済政策は、その恩恵が一部の大企業・富裕層に留まり、多くの働く者・生活者が景気回復を実感できない中、金融政策頼みの経済財政運営はもはや限界を迎えていると言わざるを得ない。加えて、財政健全化や社会保障改革は先送りされ、人口減少・少子高齢化など我が国の重要課題も依然残されたままである。

いま政治が責任を持つべきは、すべての働く者・生活者が安心して暮らせる社会を実現することであり、未来に希望を持つことのできる新たな選択肢を示すことである。そして、そのためには、政策で切磋琢磨する緊張感ある二大政党的体制を実現し、健全な議会制民主主義を取り戻さなければならない。

その意味で、今夏の第25回参議院選挙は、連合が掲げためざすべき社会像「働くことを軸とする安心社会の継承と深化」を共有する政治勢力を結集し、立憲主義、民主主義をないがしろにする現政権与党と対峙する極めて重要な闘いとなる。

連合ならびに連合三重は、比例代表選挙で組織内候補予定者10名、三重県選挙区選挙でよしの正英さんの推薦を決定した。とりわけ、10名の組織内候補予定者が挑戦する比例代表選挙と、6年前に失った三重県選挙区の議席を取り戻す「よしの候補」の戦いは、まさに連合の組織力が問われる闘いである。

来たるべき決戦に向け、連合三重は構成組織と地域協議会の取り組みを連携・融合させ、13万組合員の総力を結集することで、組織内候補予定者はもとよりブロック相互推薦候補を含む連合推薦候補予定者全員の必勝を誓う。

以上決議する。

2019年6月27日

連合三重第22回執行委員会